

和歌山県の地震

令和6年7月

1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・・	1
概況	・・・・・・・・・	1
断面図	・・・・・・・・・	2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・・	3
震度分布図	・・・・・・・・・	4

2. 地震一口メモ

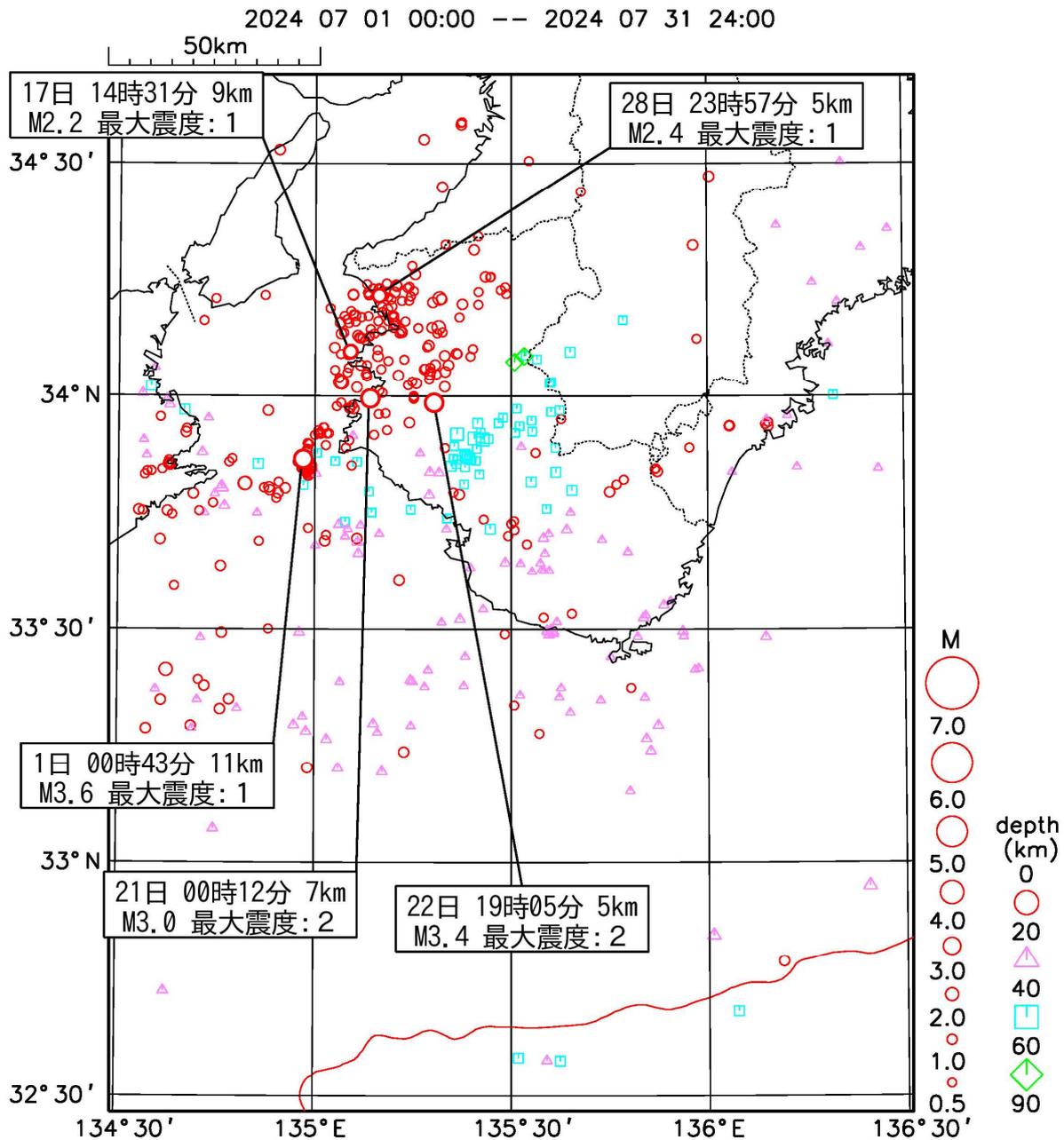
和歌山地方気象台における震度観測	・・・・・・・・・	6
------------------	-----------	---

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

1. 和歌山県の地震活動

【震央分布図】



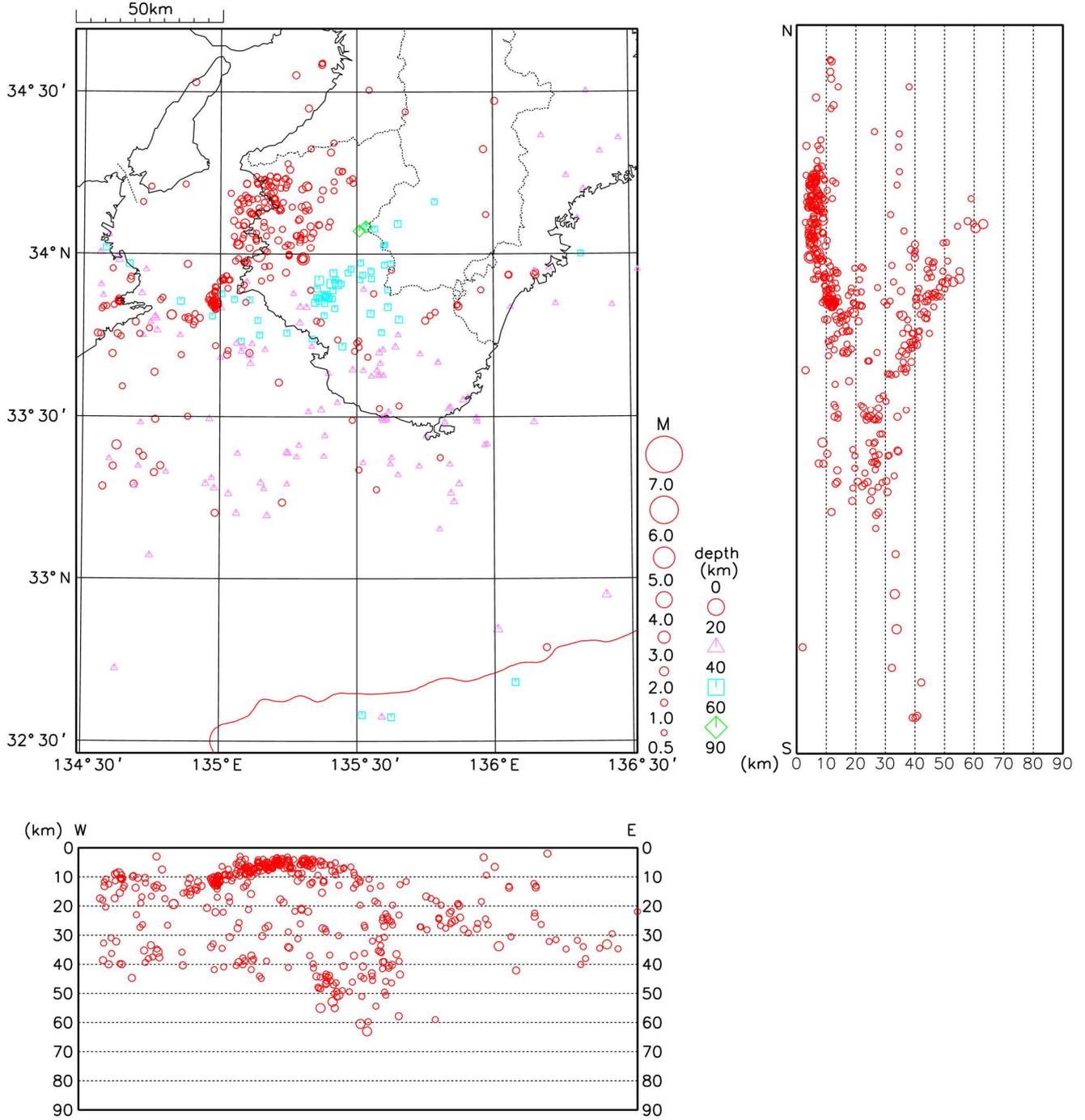
【概況】

7月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は23回（前月は29回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、01日00時43分の紀伊水道の地震（深さ11km、M3.6）でした。この地震は地殻内で発生しました。

7月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、5回（前月7回）でした。

【断面图】

2024 07 01 00:00 -- 2024 07 31 24:00



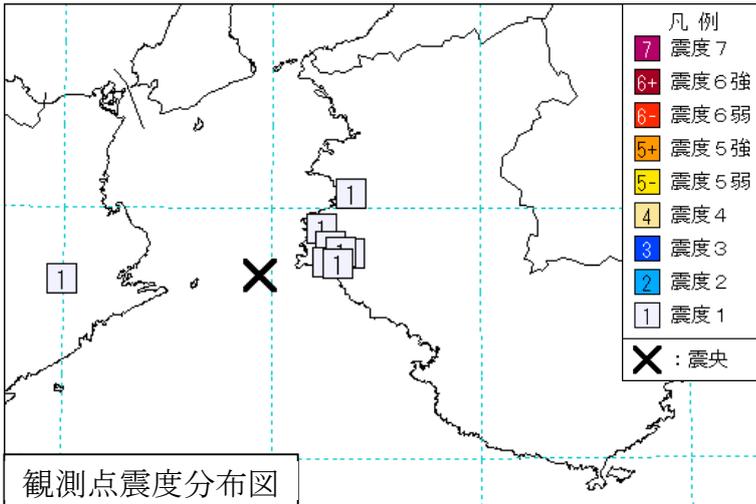
【 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2024年07月01日00時43分	紀伊水道	33° 51.9' N	134° 58.2' E	11km	M3.6
和歌山県 震度 1：御坊市菌, 御坊市湯川*, 湯浅町青木*, 和歌山美浜町和田*, 和歌山日高町高家*, 由良町里*, 日高川町土生*					
2024年07月17日14時31分	紀伊水道	34° 05.7' N	135° 05.4' E	9km	M2.2
和歌山県 震度 1：有田市初島町*					
2024年07月21日00時12分	和歌山県北部	33° 59.6' N	135° 08.4' E	7km	M3.0
和歌山県 震度 2：湯浅町青木*					
震度 1：御坊市菌, 御坊市湯川*, 日高川町土生*					
2024年07月22日19時05分	和歌山県北部	33° 59.1' N	135° 18.2' E	5km	M3.4
和歌山県 震度 2：御坊市湯川*, 湯浅町青木*, 日高川町土生*, 日高川町高津尾*, 有田川町下津野*					
震度 1：海南市下津*, 有田市初島町*, 御坊市菌, 和歌山広川町広*, 和歌山日高町高家*, みなべ町土井, 有田川町中井原*					
2024年07月28日23時57分	和歌山県北部	34° 12.9' N	135° 09.7' E	5km	M2.4
和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*					

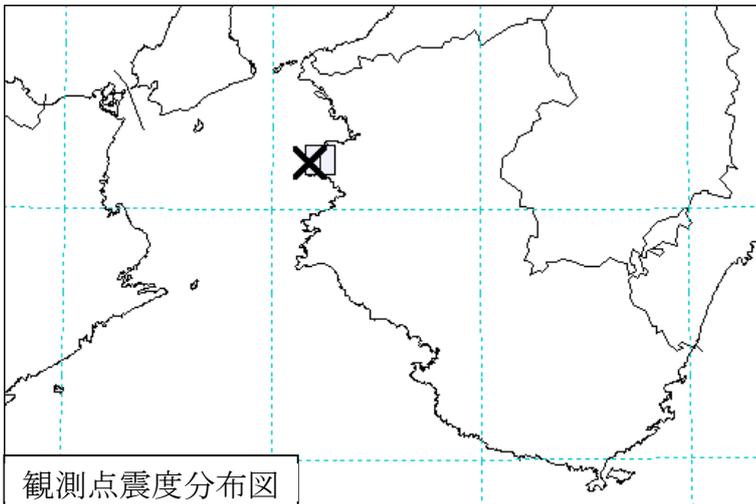
地点名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図】

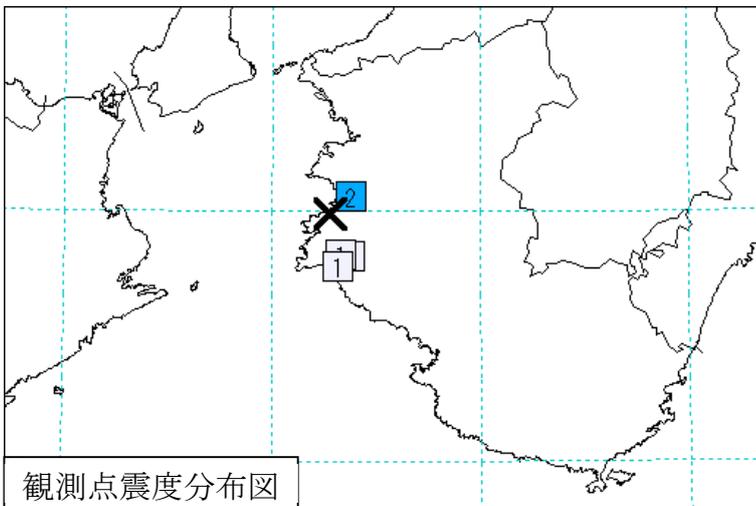
2024年07月01日00時43分 紀伊水道の地震（深さ11km、M3.6）



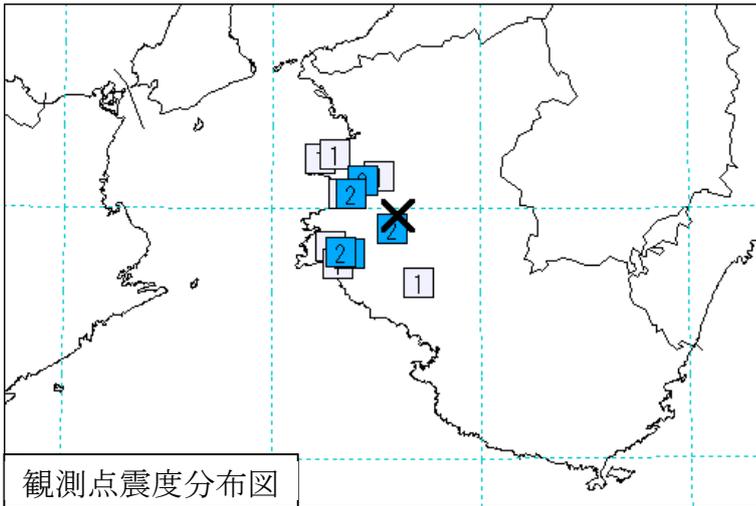
2024年07月17日14時31分 紀伊水道の地震（深さ9km、M2.2）



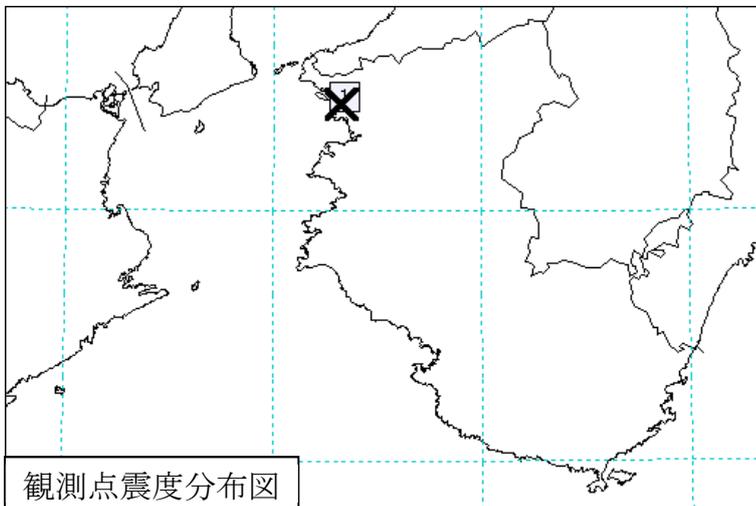
2024年07月21日00時12分 和歌山県北部の地震（深さ7km、M3.0）



2024年07月22日19時05分 和歌山県北部の地震（深さ5km、M3.4）



2024年07月28日23時57分 和歌山県北部の地震（深さ5km、M2.4）



2. 地震一口メモ

和歌山地方気象台における震度観測

和歌山地方気象台は、明治12年（1879年）7月1日に県立の和歌山測候所として現在地に設立され、今年で145年が経過しました。戦災により庁舎が焼失したこともありましたが、同じ場所で観測を続けています。



初代庁舎の写真（昭和2年（1927年）撮影）

設立当初から地震による揺れ方などを観測していた記録がありますが、日本で統一的な震度観測が始まったのは明治17年（1884年）からです。当時は、地震計による観測体制が十分でなく、地震現象の把握のために、揺れの強さ（4階級）を体感で観測していました。

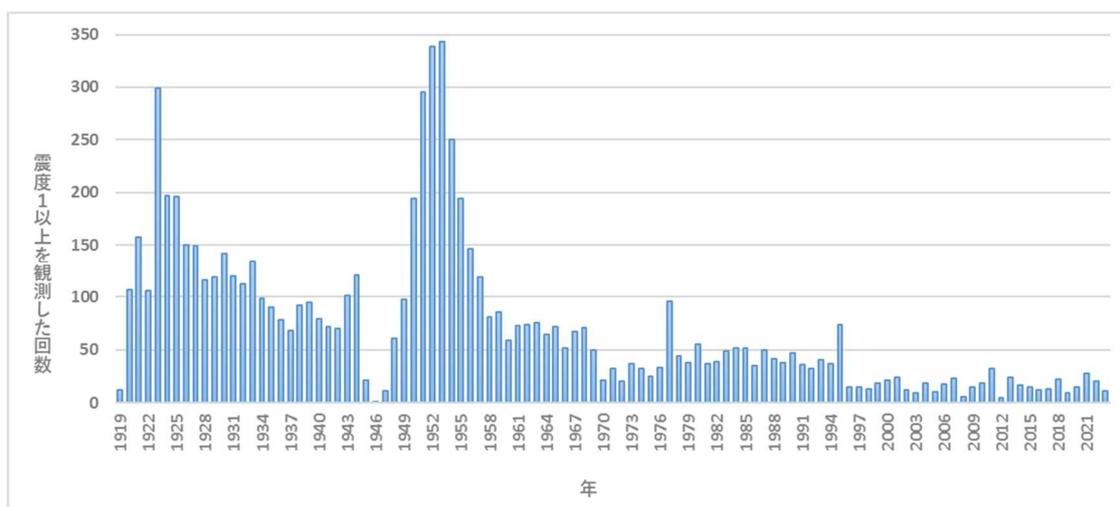
その後、体感だけでなく、周囲の状況や被害なども取り入れたり、各階級の区別を明確にしたりと、震度階級の改良が行われてきました。

また、観測した震度は、次第に防災対応への活用を重視するようになり、より客観的かつ迅速な震度の提供や観測点数の増強のため、平成8年（1996年）4月からは体感による観測を廃止し、震度計（現在：10階級）で観測するようになりました。

[気象庁HP > 知識・解説 > 震度について <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/index.html>]

下図は、和歌山地方気象台で体感や震度計などで観測した震度1以上の年別回数を示したグラフです。観測された震度のほとんどが、和歌山市付近の浅い場所で発生した規模の小さな地震による揺れです。最近に比べると、1920年代から1950年代は数が多く、地震活動が活発だったことが分かります。

なお、1945年頃は、戦災により観測できなかった時期があります。



和歌山地方気象台で観測した震度1以上の年別地震回数